

INTEGRATED REPORTING <IR>

IIRC ニュースレター：4月号

広範なバリュードライバー に関するマテリアル情報を、 投資家は必要としている

今月公開された2つのレポートによると、投資家が投資を決定する際に、単なる財務情報ではなくそれ以上の情報をますます重要視しており、投資実務がシフトしていることが立証されている。この傾向は、BlackRockのCEO、Larry Fink氏がアナニュアルレターで企業に対し価値創造に向けて長期戦略の設定をすることを呼びかけた際、投資家が圧倒的に賛同したことによっても確認されている。

IIRCは、EYから刊行された報告書「*Is your nonfinancial performance revealing the true value of your business to investors?*」に対し、投資家が単なる財務情報を超えて、幅広い価値創造ストーリーの対話をするのできる企業に関心を示していることを明白に説明する、一層説得力のある調査であるとして好意的に評価している。

同様に、State Streetが発行した報告書「*The Investing Enlightenment: How Principle and Pragmatism Can Create Sustainable Value through ESG*」では、広範なバリュードライバーに関するマテリアル情報を、投資家は必要としていることが明らかにされた。IIRCのウェブサイト「報告書の結果はとて興味深く、統合報告の重要性を強固に示すものだった」と、当報告書の著者であるBob Eccles氏はブログでコメントを投稿した。続けて、「どの会社も多くのステークホルダーに対して考慮すべき広範囲に及ぶESG課題に直面している」と述べている。しかしながら、これらの課題すべてに投資家に関心を示すわけではない。投資家たちは、「国際統合

**フィードバックは
受け付け中です!**

IIRCへの
コメントは
2017年4月30日
まで受け付け
ています。

「国際統合報告
フレームワーク」の
実施に関する
フィードバックは
将来のガイダンスと
リサーチを
形作るものです。

詳細は
[IIRCのサイトを
ご参照ください。](#)

先進事例からの示唆

今月の「統合報告
事例データベース」
への追加事例：

[New Zealand Post
統合報告書 2016:](#)
マテリアリティ
に対するアプローチ

報告フレームワーク」で定義されたマテリアル情報に興味を持っているのだ。

Eccles 氏と彼の共同著者で State Street 応用研究センターのサステナブル投資研究長である Mirtha Kastrapeli 氏の調査によると、投資家の 45%は ESG 情報を組み込まないことは受託者責任違反だと考えているようだ。

これは、統合報告書は投資判断の際に 2 番目に最も利用される非財務情報用資料と位置付けられているという、EY の報告書を裏付けている。さらに、投資家調査の回答者の 92%が、上場企業の CEO は毎年長期的な価値創造のための明瞭な戦略を策定し、取締役会がそれを検討したことを直接確認すべきだと、同意している。また同調査では、91%の投資家が統合報告書は投資決定の際に直接的に役に立つと考えており、企業の伝統的なアニュアルレポートと合わせ「統合報告」を非財務情報分析の際に利用する最も有用なソースとして位置付けた。

IIRC の CEO である Richard Howitt は以下のように調査書の文書にて言及している。「私たちは、長期価値に焦点を置く投資家が増えてきていることを確認させたこの EY の先進的な調査を歓迎します。特に、BlackRock が取締役会に長期的な価値創造への戦略的枠組みを各年で策定することを求めたことに対して広い支持があることは喜ばしいことです。今回の調査は、統合報告はこの課題を達成する役割をもつと強調しています。調査結果はすべての投資家に、評価と投資決定をする際、幅広い情報を使ったより構造化された分析をするという理論的根拠を提供しています。このようなシフトは、企業にさらなる実績開示を奨励します。投資家はさらに先に推進したいと考えており、企業も同様に進展を望んでいます。そして統合報告は、彼等がそれを実施するための手段なのです。」

幅広い企業報告の役割に 注目する国際会計基準審議会

国際会計基準審議会（以下、IASB）はこれから担う役割を見据え、「より良いコミュニケーション」の一環として、統合報告の発展も含めたより幅広い企業報告について研究し協議してい

Sanford
アニュアルレポート

2016:
組織概要と
外部環境への洞察

Vancity
統合報告書 2015:
簡潔性

今月のニュース:

財務ジャーナリストの
Robert Bruce と
IIRC アンバサダー
ならびに
IIRC の SDG
Advisory group
議長を務める
Russel Picot
との対談

および

Enact Sustainable
Strategies の
コンサルタント、
Annelien
Van Meer 氏
による寄稿
「Integrated
Reporting –
my journey
‘inside the box’」

る。一つの可能性として、IASB がプラクティス・ステートメント・マネジメント・コメントリーの改訂や更新を行うプロジェクトが考えられる。

世界中の企業は、企業報告におけるより高い情報の関連性が必要だと、明瞭な意見を発しており、IASB はこれににんじている。IIRC はこのような最近の発表を、IASB がリードする世界の企業報告システムにおいて、グローバルな対話を続けるための重要な貢献と捉えている。

IIRC の CEO である Richard Howitt は、この IASB の発展について次のようにコメントした。「統合報告のルーツはマネジメントやインタビュー報告の中に見受けられます。何年もこの分野の先駆者として IASB からインスピレーションを受けています。IIRC、IASB の両社とも世界の先導的な基準と枠組み作りの開発者となるコーポレートレポートダイアログの献身的な参加者であり、企業報告の分野でより良い首尾一貫性、整合性、比較可能性に対して活動しています。IASB よるこの最近の表明は、このようなステップをとる彼らの貢献を示しており、彼らの仕事が進展するにつれ、IIRC は私たちの専門性を提供し IASB 側のパートナーと緊密に連携しています」。価値創造の広大なストーリーを伝えようとしている企業は、IFRS に沿った「国際統合報告フレームワーク」を使うことができる。

2016 年の IFRS 評議員のレビューに続き、評議員は広範な企業報告における思考を深めるために、IASB が IIRC やコーポレートレポートダイアログと協働することは重要であると考えていると、述べている。

そして、IIRC の CEO は 1 月、これらの発展について議論するため、IFRS 評議員のミーティングをパリで開催した。

トルコにおいて、 高まる統合報告への関心

トルコで統合報告への関心が高まっていることを受けて、イスタンブールの証券取引所のイベントで「統合報告リージョナルネットワーク」が発足した。このネットワークは、統合思考



や統合報告をトルコ市場に導入することの重要性を信じるトルコの団体によって設立された。この影響力ある団体には、Borsa Istanbul、the Turkish Industry and Business Association、SKD Turkey、Argüden Governance Academy、Global Compact Turkey、Garanti Bank、Çimsa といった企業が加盟している。

会長である Güler Aras 博士は、ネットワーク発足について次のようにコメントしている。「今日、ビジネス業務がより複雑化し、また問題や課題解決の多角的構造化や増長する株主の期待もあることから、『持続的な価値創造』のためには、統合的で戦略的なアプローチは必須となっている。『統合報告トルコネットワーク』では、統合報告のアプローチをトルコの全組織に広めようとしている。そしてまた、実践の支援やこの事項についての認知度を高めようとしている」。

Garanti Bank や Çimsa はトルコにおける統合報告の早くからの先導企業であり、彼らは「国際統合報告フレームワーク」開発支援に向け、2013 年に世界中の 150 の他の企業や投資家とともに IIRC のパイロットプログラムに参加した。

トルコの大手銀行の一角を担う TSKB は、トルコで統合報告書を発刊した最新の企業である。同行の統合報告書では、創立から、社会はもちろん顧客、投資家、ビジネスパートナー、雇用者のための長期的な価値を作り続けることを目指してきたことや、統合思考を銀行内に浸透させ、統合思考が「modus operandi (仕事のやり方)」において不可欠だとする考えが、言明されている。

「統合報告トルコネットワーク」の会長である Güler Aras 博士は、[トルコの最近の発展についてブログを書いている](#)。

統合思考のチャンピオンか？

統合報告を導入する上で不可欠な要素の一つは、組織全体で統合思考を取り入れることである。The Finance for the Future Awards 2017 は、統合思考のコミュニケーションにおけるベストプラクティスを再度強調するもので、各組織は[オンラインでアワードにエントリーすることが可能だ](#)。

統合報告の推進には様々な起点がある。会社全体の価値創造やパフォーマンスを一体的にすることで社内の統合思考を増長させて統合報告を開始する組織もあれば、一方で会社の戦略的な連携と統合思考の推進を加速させることを期待して統合報告書の作成に踏み切る組織もある。

どちらも統合報告の導入とともに発展した組織でとられた手法だ。IIRC は「[Creating Value](#)」最新号で、組織が統合思考を導入する理由と方法、そして統合思考を採用する利点についての見識を披露している。

United Utilities は 2016 年、統合思考のコミュニケーションで表彰された。自社の水道および下水道ネットワーク全体でどう統合思考を実践に移すかについて、[同社 CFO である Russ Houlden 氏は講演した](#)。アワードのサイトでは、前回の統合思考コミュニケーションカテゴリーの優秀者の例として、United Utilities や高い評価を受けている Novo Nordisk の事例を見ることができる。

Deloitte、A4S ならびに ICAEW は今年も、財務面における統合思考の優秀な企業を表彰する。貴社が統合思考の分野で進歩しているのであれば、[Finance for the Future のウェブサイトからエントリーすることができる](#)。エントリーの締め切りは 2017 年 5 月 6 日である。


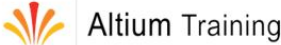






Deloitte の英国企業報告責任者であり、2016 年の審査員を務めた Veronica Poole 氏は、次のように述べている。「この賞は他とは違い特別な意味をもつ賞といえます。持続可能性や

報告、経営の質といった一部に限られるものではなく、これらすべてを包含し、さらにそれ以上の要素も加味して選定するものです。つまり、従業員や社会・環境などの多岐にわたる要素を事業戦略や日常業務の思考に取り込み、長期的に持続可能な価値創造を実現することに事業活動の主眼を置く企業に与えられる賞なのです。

「統合報告」トレーニングは個人の能力を向上するとともに、組織全体の統合報告作成能力の養成も図るものです。

トレーニングは現在、私たちの「統合報告」ファウンデーション・パートナーを介して世界中で実施されています。

[次回の開催についてはこちらをご覧ください。](#)

銀行はイノベーションを どのように伝えているか？

統合報告の普及・促進に向けて世界中の銀行が共同で設立した団体「統合報告バンキングネットワーク」によりこのほど、



「Innovation in banking – are we communicating the value created?」

と題した論文が発表された。

当論文の著者は、DBS Bank のマネージング・ディレクターで「統合報告銀行ネットワーク」の議長を務める Mikkel Larsen 氏である。当論文では、企業が競争力を維持

するために、二つの事象への適応が重要であることに焦点を当てている。一つは、オンラインやモバイルなど、より良くより早いサービスを求める消費者への対応、もう一つはプロセスやアプリケーションを常に改善し社内コスト抑制への対応である。

当論文は、「今日のほとんどすべての銀行は、イノベーションは長期戦略において極めて重大な要素であり、イノベーションプログラムや調査、新しいプロセスと技術発展に数十億ドルを投資している」と述べている。続けて、「マルチ資本を擁する『国際統合報告フレームワーク』は、将来的に財務資本および知的資本の増加につながるイノベーションについて考慮する上で、有用なツールとなるものである」と言及している。

組織によって活用され、影響を受けているリソースの役割と関係、長期的に価値の創造が果たす役割について報告することは、「統合報告フレームワーク」の基本的な概念である。当論文は、銀行によって活用され、影響を受けた資本の一部として、銀行が統合報告書内で「イノベーション」を測定し開示することを促している。

「統合報告銀行ネットワーク」が実施した調査によると、イノベーションに関する最新の情報開示は「ごくわずかであり、その場合でも一般的には定性的開示に留まっている」。当論文は、様々な業界の先進的な開示事例を紹介し、開示の改善をめざす銀行にとってインスピレーションとなることを期待している。

「国際統合報告フレームワーク」 のアップデート情報を 世界規模で追跡する新ツール

IIRC は Corporate Register と連携し、「国際統合報告フレームワーク」を参照あるいは適応して報告書を作成している企業についての情報を継続的にアップデートしている。とりわけ、「国際統合報告フレームワーク」の更なる普及に向けて、有益な情報を発信している。

Corporate Register は、統合報告書を採用している企業の名簿を作成しており、情報を定期的に更新している。これによって読者は「統合報告書」を採用する地域や部門に関する情報を入手することができる。その概要は、IIRC のウェブサイトで見覧可能である。

この名簿は、Black Sun と協働している「統合報告事例データベース」を補完しており、とりわけ統合報告の先進企業のケーススタディなど、企業がどのように統合報告の採用を進めているかの情報提供をしている。

企業名簿、データベースのいずれも、報告書が 21 世紀のコミュニケーション・ニーズに合わせてどのように、またどのような場面で進化しているかを理解する上で重要なメカニズムである。



Website



Twitter



LinkedIn



YouTube

Contact: juliet.markham@theiirc.org

Copyright © 2017 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.
[unsubscribe from this list](#) [update subscription preferences](#)